



尾張旭市
Owariasahi City



東邦ガス

部活動改革に係る 実証実験の報告会

令和7年5月12日（月） 尾張旭市×東邦ガス株式会社（共催）



はじめに

- 本日の趣旨
- 本取り組みの背景
- 本取り組みの全体像

第 1 部：実証実験に関する説明

第一弾実証実験（2-3月）の成果報告

- 実施目的
- 検証ポイント①：企業で働く人が部活動の外部指導員として活動できるのか（成立するのか）を確認する
- 検証ポイント②：外部指導員の活用が広がった際に、学校や教育委員会の業務量がどのように変化するのかを把握する

第二弾実証実験について

- 実施目的
- 実施概要

第 2 部：尾張旭市としての新たな取り組み

- 実施概要（案）

はじめに



本日の趣旨

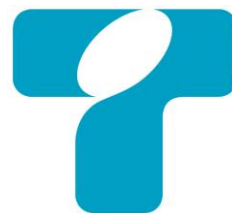
尾張旭市と東邦ガスが共同で実施した実証実験(令和7年2月~3月末)の内容と検証結果、今後の展望についてご報告いたします。



尾張旭市

Owariasahi City

×

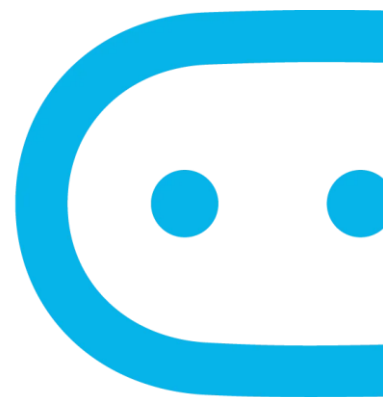


東邦ガス

令和7年12月1日で市政施行55周年



おいしい紅茶 日本一のまち



東邦ガス

つなCtech

ツナグテ

本取り組みの背景

少子化や教職員の負担増により、中学校の部活動はこれまで通りの形で継続することが難しくなっており、生徒が安心してスポーツ・文化活動に親しめる環境づくりが求められています。

こうした中、尾張旭市では“休日”の部活動における教職員の指導廃止を見据え、「外部指導者の確保」と「業務の仕組みづくり」という2つの課題に対応すべく、令和7年1月より東邦ガスと連携し、**企業人材による外部指導モデルの実証**を開始しました。

中学校部活動を取り巻く状況

- ✓ 少子化により生徒数が減少、チーム編成が困難な競技も
- ✓ 未経験の教職員が顧問を務めるなど、現場の負担が顕在化
- ✓ 教職員の休日指導の持続可能性が限界に

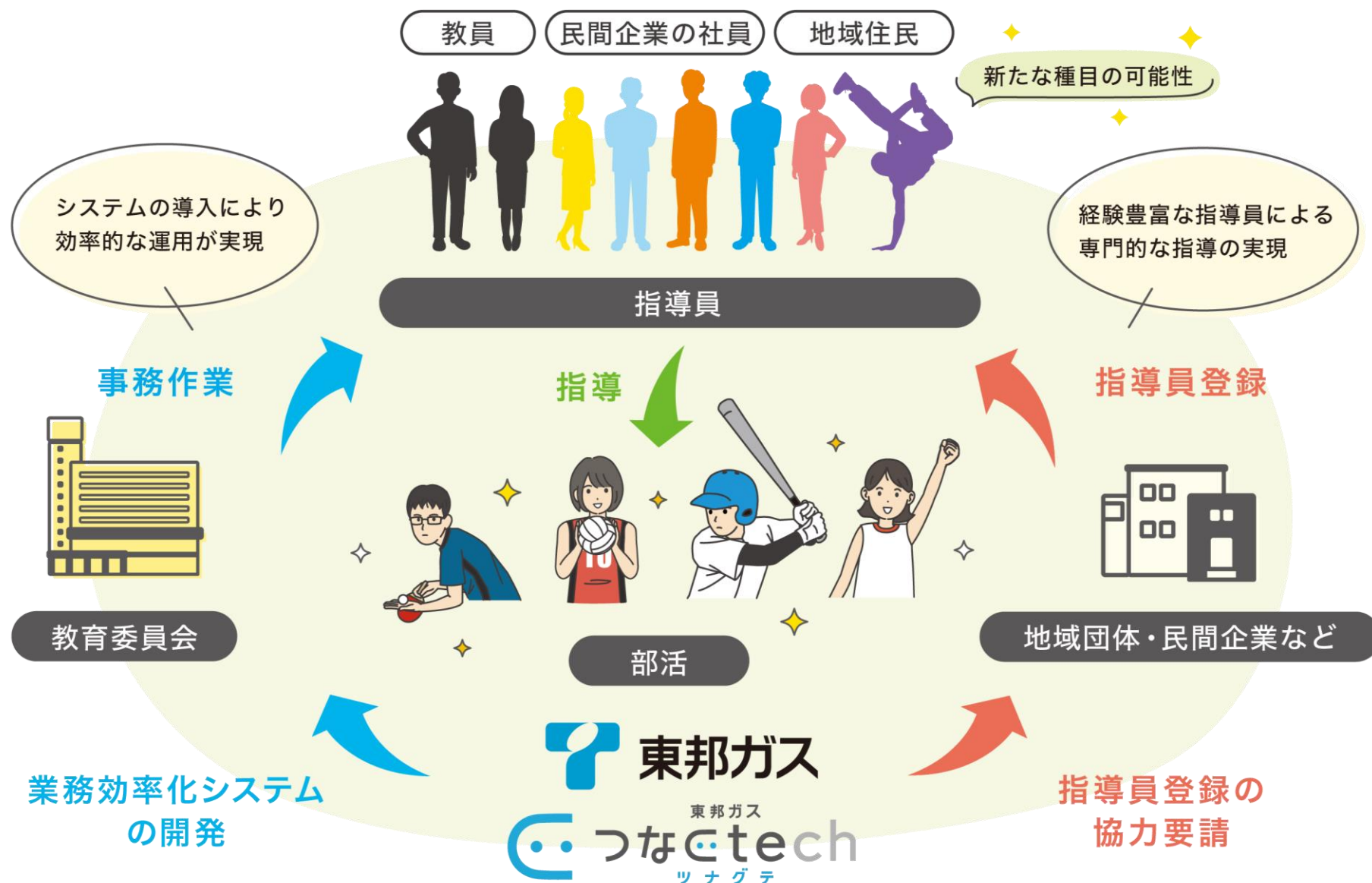
尾張旭市の改革方針

- ✓ 令和8年4月以降、“休日”の部活動における教職員の指導を廃止
- ✓ 地域・外部人材による指導へ移行
- ✓ 「外部人材の確保（ヒト）」と、「業務の仕組みづくり（業務改善）」が大きな課題

令和7年1月より、尾張旭市と東邦ガスが連携し、

企業人材を活用した外部指導モデルの実証を開始

本取り組みの全体像



第1部

実証実験に関する説明



第一弾実証実験（2-3月）の成果報告

実施目的

本実証実験については、以下の2点を目的として設定しております。

①企業で働く人が部活動の外部指導員として活動できるのか（成立するのか）を確認する

具体的には...

- ✓ 企業で働く人が、指導経験に関係なく、技術面やコミュニケーションの面で問題なく指導でき、保護者・生徒に受け入れられるかを確認する

②外部指導員の活用が広がった際に、学校や教育委員会の業務がどのように変化するのかを把握する

具体的には...

- ✓ 現時点における、外部指導員活用において、学校・教育委員会で対応している業務を把握する
- ✓ 今後、外部指導員の活用が広がった場合の業務量をシミュレーションする

検証ポイント①

企業で働く人が部活動の外部指導員として活動できるのか（成立するのか）を確認する

実施概要と検証方法について

実施概要

項目	内容
実証期間	令和7年2～3月（休日部活動のみ）
対象学校	尾張旭市立西中学校

ソフトボール部

現状	指導員（2名）	
- 顧問：経験者 - 外部指導員：なし - 生徒数：12名	- スポーツ採用社員 - 指導歴：なし - 実績：甲子園出場	- 一般採用社員 - 指導経験：あり - 実績：県大会ベスト8
	役割：顧問サポート役かつ技術指導	

女子バレーボール部

現状	指導員（2名）	
- 顧問：未経験者 - 外部指導員：なし - 生徒数：25名	- 一般採用社員 - 指導歴：あり - 実績：県大会優勝	- 一般採用社員 - 指導経験：なし - 実績：なし
	役割：部活動指導の中心	

剣道部

現状	指導員（1名）
- 顧問：未経験者 - 外部指導員：あり - 生徒数：11名	- 一般採用社員 - 指導歴：なし - 実績：県大会優勝
	役割：既存指導員のサポート役

検証方法

項目	内容	
調査対象	生徒および保護者	顧問および外部指導員
調査方法	Webアンケート	インタビュー
回答数/対象数	- 生徒：28名/48名（58.3%） - 保護者：28名/48名（58.3%）	- 顧問：3名/3名（100%） - 指導員：5名/5名（100%）
設問	- 生徒：全7問（複数選択式・自由記述併用） - 保護者：全7問（複数選択式・自由記述併用）	- 顧問：60分インタビュー - 指導員：60分インタビュー

（実際の指導風景）



ソフトボール部



女子バレーボール部



剣道部

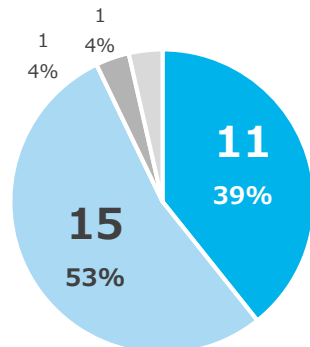
アンケート結果について_総合評価・よかった点

生徒・保護者の多くが、企業人材による実践的な指導や企業人材ならではの信頼感を高く評価しておりました。

<質問内容>

この取り組みについて、総合的にどのように評価できるかを教えてください

【保護者】



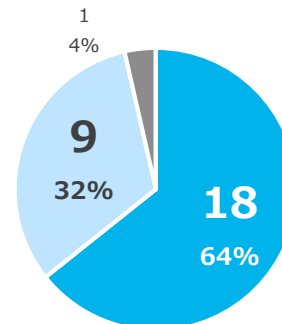
N = 28

- ✓ 教職員とは別の視点で生徒達をみてもらえることは個人の能力評価を多角的に見られていいと思う。

<質問内容>

これからも、外部指導員に教えてもらいたいと思いますか？

【生徒】

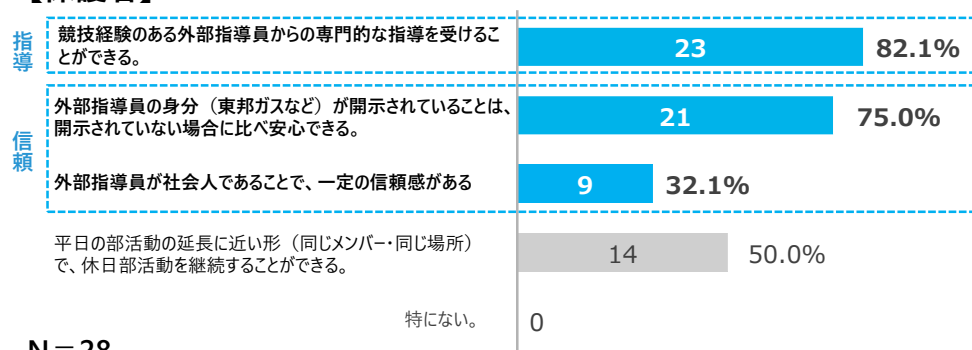


N = 28

- ✓ 部活の顧問を引き受けてくれる先生が減る中で外部指導員の人にはっきり専門的におしえてもらえることはありがたいです。
- ✓ 外部のコーチがいたことで普段教えてもらえないこととかコツを沢山吸収することができました。

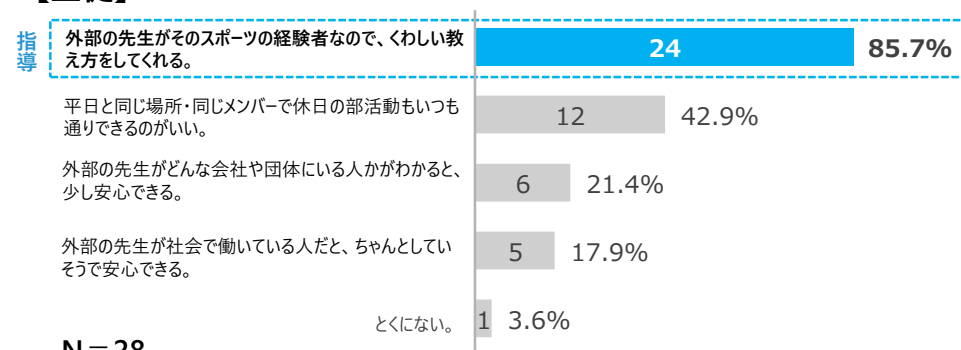
<質問内容> この取り組みについて、評価できる点（よかったと思うこと）をすべて選択してください（複数回答可）

【保護者】



N = 28

【生徒】



N = 28

アンケート結果について_懸念点

懸念点としては、保護者からは**安全面に関する不安**、生徒からは**もっと踏み込んだ指導の希望**や**指導員との距離感に対する戸惑い**が見受けられました。

<質問内容> この取り組みについて、懸念点をすべて選択してください（複数回答可）

【保護者】

安全

安全面で、指導を本業としていない外部指導員の指導は不安である。

6 21.4%

心理面で、指導を本業としていない外部指導員の指導は不安である。

3 10.7%

技術面で、指導を本業としていない外部指導員の指導は不安である。

1 3.6%

その他 1 3.6%

N = 28

特になし 19 67.9%

✓ ケガなど何かあった時は心配なので、マニュアルがあると指導員もどのように対応するのかわかるし、保護者も安心できると思います。

✓ 外部指導員の指導の元でのケガの発生時の対応など。

<質問内容> 外部指導員に教えてもらって、気になったことをすべて選択してください（複数回答可）

【生徒】

技術面で、もっと厳しく教えてほしかった

10 35.7%

態度面で、もっと厳しく教えてほしかった

3 10.7%

技術面で、厳しすぎると感じた

0

態度面で、厳しすぎると感じた

0

外部指導員との心の距離を感じた

7 25.0%

方針面で、いつもの部活と違って、とまどってしまった

0

技術面で、いつもの部活と違って、とまどってしまった

4 14.3%

その他 3 10.7%

N = 28

特になし 4 14.3%

✓ もっと上手になれるように教えてほしい。

✓ 練習試合や交流戦などにも参加して欲しい。

✓ なんでも吸収して上手になっていきたい。

インタビュー結果について_良かった点・課題に感じた点

外部指導員からは「指導経験はなかったものの、問題なく対応できた」「これからも指導したい」といった声が寄せられ、顧問教員からも、競技経験者による実践的な指導に対して高い評価がありました。

一方で、面倒な事務手続きへの不満や、個人のLINEなど私的な連絡手段に対する抵抗感、情報共有の不足、生徒との距離感やコミュニケーションの難しさが懸念点として挙げられました。

外部指導員へのインタビュー結果



指導経験はなく不安だったが、自身の競技経験をもとに指導することができました。自身が学生時代に取り組んでいた練習メニューを活用することで喜んでくれました。



地域の子どもたちへの指導を通じて、自分の経験が地域貢献につながっていると実感できました。今後も継続的に関わり、地域の力になりたいと考えています。



活動報告書の作成が紙ベースで行われていたため、事務作業が面倒でした。また、日程調整などの連絡時においては、自身の個人LINEを使わなければならない、若干の抵抗感があった。



活動方針や競技レベルが事前に共有されていなかったため、どういった指導をすべきなのかが分からなかったです。また、生徒とのコミュニケーション・距離感が難しかったです。

顧問の先生へのインタビュー結果



自分ができない**実践的な技術指導**で生徒の**技術が向上**し、意識も変わったと思います。生徒が積極的に声を出すようになり、**練習への姿勢にも前向きな変化**が見られたと思います。



外部指導員の方に、**部活の方針などを事前に共有しておくべきだった**と反省しています。そうすることで、より生徒のレベルにあった指導や平日部活動とのスムーズな連携が取れたと思います。

動画をご覧ください

①企業で働く人が部活動の外部指導員として活動できるのか（成立するのか）を確認する

具体的には...

- ✓ 企業で働く人が、指導経験に関係なく、技術面やコミュニケーションの面で問題なく指導でき、保護者・生徒に受け入れられるかを確認する

成果・よかった点

✓ 生徒に対する実践的な指導の提供

- 指導員は、指導経験の有無を問わず、自身の競技経験や知見を活かした指導ができた
- 生徒・保護者・顧問からは、外部指導員からの実践的な指導への評価を得られた

✓ 企業人材の活用に対する信頼の高さ

- 保護者を中心に、企業人材を活用することに対して、信頼面において高い評価を得ることができた

課題・気になった点

✓ コミュニケーション面の難しさ

- 外部指導員は、生徒とのコミュニケーションに課題感を示した
- 生徒からは、もっと踏み込んだ指導の希望や指導員との距離感に対する戸惑いが見受けられた

✓ 安全面への懸念

- 保護者からは、安全面への配慮に対する不安の声が挙がった

✓ 情報共有の不足

- 外部指導員と顧問の双方から、対象部活動に関する事前の情報共有不足が指摘された

✓ 面倒な事務手続き・私的な連絡手段に対する抵抗感

- 外部指導員からは、紙を基本とした事務手続きの面倒さと、個人のLINEなど私的な連絡手段に対して抵抗があるとの声が挙がった

検証ポイント②

外部指導員の活用が広がった際に、
学校や教育委員会の業務がどのように変化するのかを
把握する

業務量・業務フローの見える化

学校や教育委員会が外部指導員を受け入れるにあたり、どのような業務量・業務フローになっているのかを“見える化”し、今後、外部指導員の活用が広がった場合の影響について検討を行いました。

ワークショップの様子



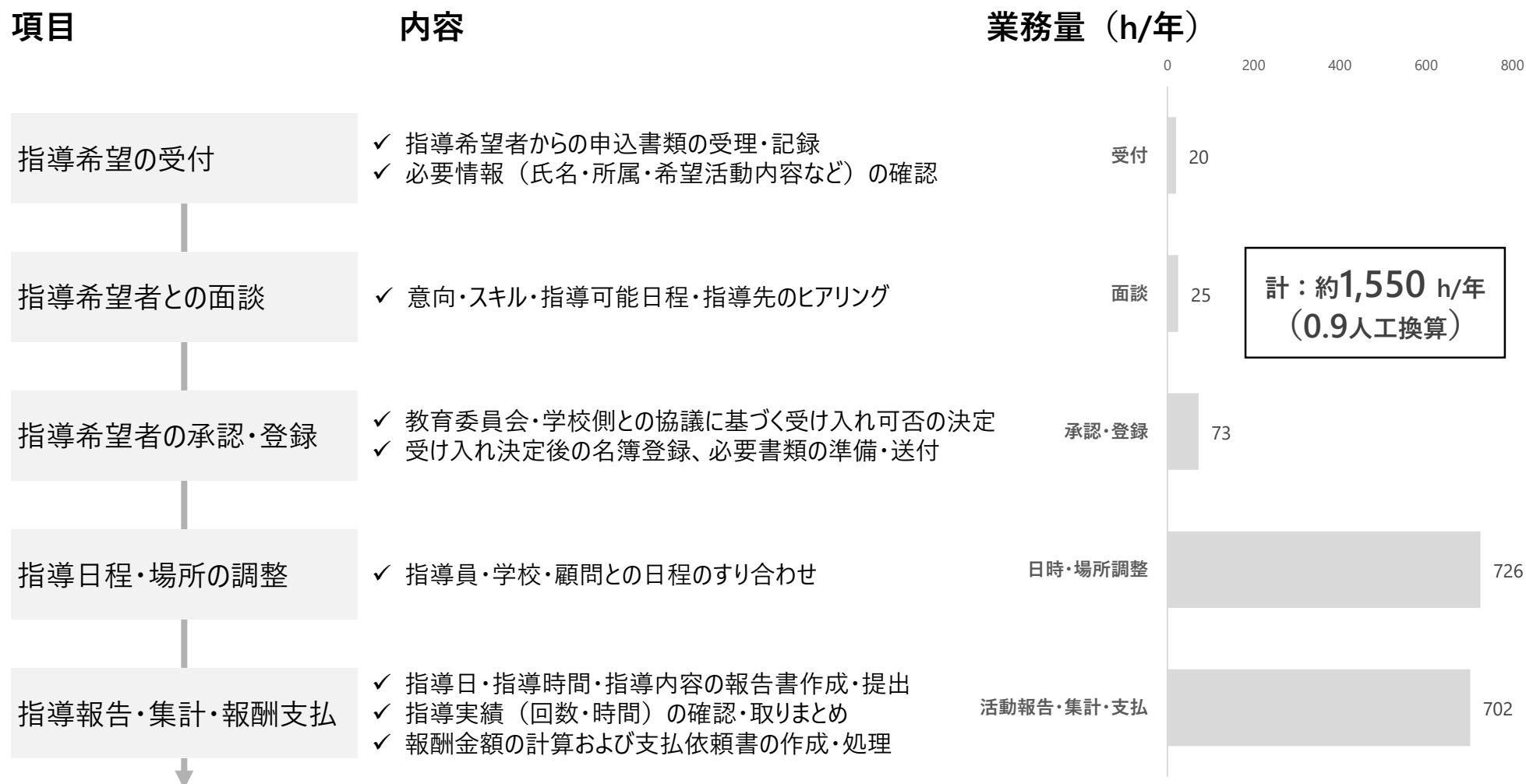
アウトプットイメージ（業務量・業務フロー調査）



現状の理解

外部指導員の受け入れに関する業務について、指導希望者の受付から報酬支払までの業務を棚卸し、1年間に0.9人工程度の業務量が発生していることを確認しました。

現状の業務フロー・業務量

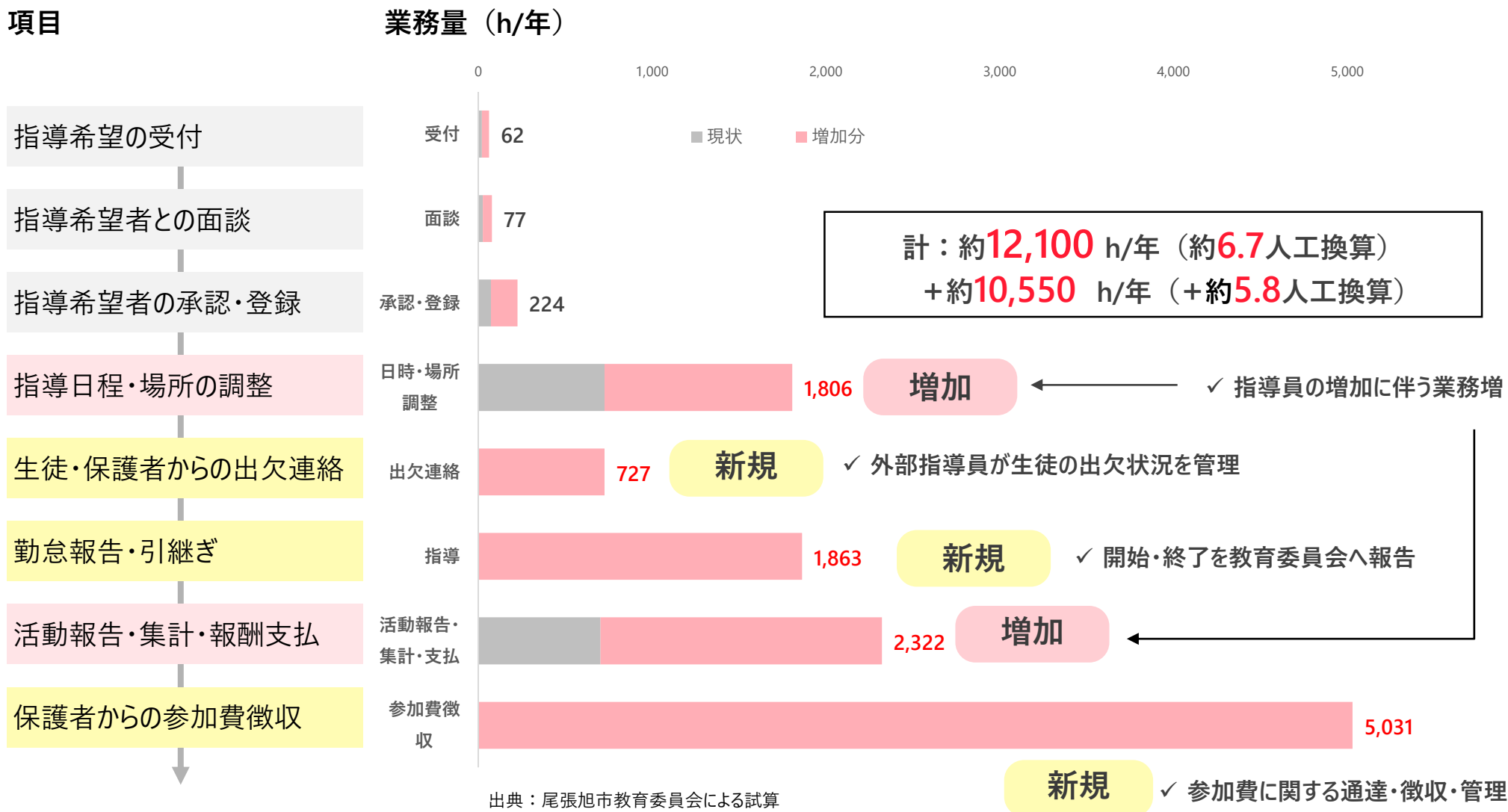


出典：尾張旭市教育委員会による試算

令和8年4月以降の見通し

指導員不足を外部指導員の活用で補った場合、指導員増加にともなう業務量の増加および新たな業務の発生により、現状から1年間で約5.8人工の業務工数増加が見込まれます。

令和8年度以降の業務フロー・業務量の変化



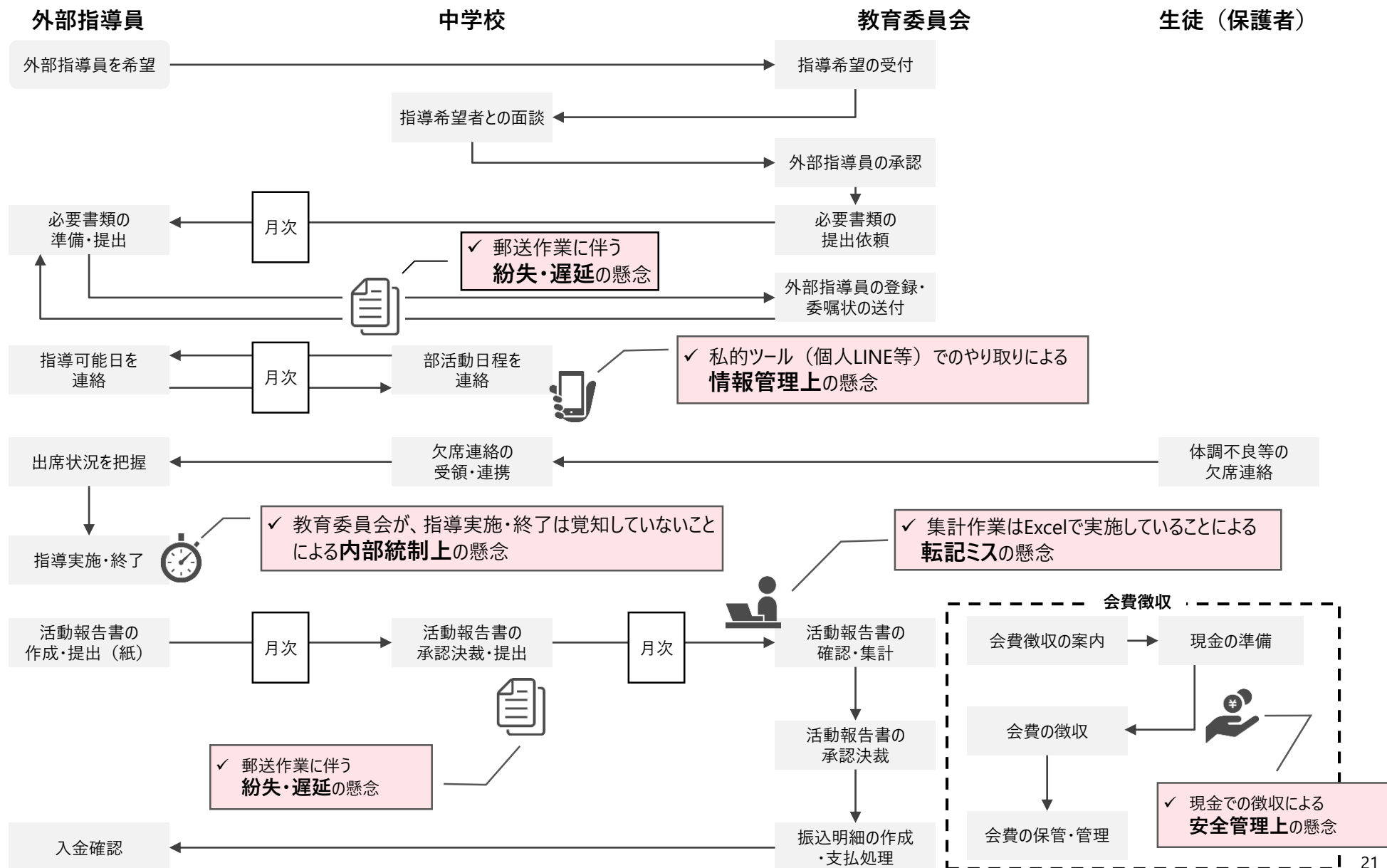
現状の業務フローにおける懸念点

紙ベース・個別連絡が中心であり、運用上の懸念点の存在を確認しました。

受付・登録

日程調整・指導

活動報告・報酬支払



②外部指導員の活用が広がった際に、学校や教育委員会の業務がどのように変化するのかを把握する

具体的には...

- ✓ 現時点における、外部指導員活用において、学校・教育委員会で対応している業務を把握する
- ✓ 今後、外部指導員の活用が広がった場合の業務量をシミュレーションする



把握できたこと

業務量

- ✓ **現行体制のままでは、外部指導員の拡大に向けた人的リソースが不足**
 - 現状は、約0.9人工/年の業務量が発生しており、外部指導員の活用が広がった際には、月次の活動報告や参加費徴収等を中心に、約6.7人工分の業務量（+5.8人工）が見込まれることが判明した
 - 現行の業務体制や仕組みのままでは、継続的な部活動運営や外部指導員の拡大は困難だとわかった

業務フロー

- ✓ **紙・個別連絡を中心とした運用が、運用上の懸念につながっている**
 - 現状は、登録・受付や活動報告・集計などの業務は、紙ベースで行われており、手続きの遅れや資料の紛失、内部統制上での課題があることが判明した
 - また、顧問・外部指導員間の連絡手段には、個人LINEやSMS（ショートメッセージ）が用いられることが多く、情報管理の懸念が浮き彫りとなった

第二弾実証実験について

実施目的

第二弾実証実験においては、第一弾実証実験で確認した各課題を解決する施策を取り入れることで、“尾張旭モデル”のブラッシュアップを図ります。

第一弾実証実験での課題（再掲）

✓ コミュニケーション面の難しさ

- 外部指導員は、生徒とのコミュニケーションに課題感を示した
- 生徒も、外部指導員との距離感への不満や、より踏み込んだ指導を期待する声があがった

✓ 安全面への懸念

- 保護者から、安全面への配慮に対する不安の声が寄せられた

✓ 情報共有の不足

- 外部指導員と顧問の双方から、対象部活動に関する事前の情報共有不足が指摘された

✓ 面倒な事務手続き・私的な連絡手段に対する抵抗感

- 外部指導員からは、紙を基本とした事務手続きの面倒さと、個人LINEなどの私的な連絡手段に対して抵抗があるとの声が挙がった

✓ 外部指導員の拡大に向けた人的リソース不足

- 現在の業務量は約0.9人工/年だが、外部指導員の活用を拡大した場合には、業務量が約6.7人工/年にまで増加する見込みであり、現行の体制では継続的な運用が困難となることが判明した。

✓ 紙・個別連絡を中心とした運用上の懸念

- 登録・報告などが紙で運用されているため、遅延や紛失が発生しやすく、内部統制上の懸念がある。また、連絡手段として個人LINEやSMSが多く用いられており、情報管理における課題が存在。

第二弾実証実験での解決策

✓ 指導員向け研修プログラムの導入

- 外部指導員が生徒と適切に接し、安全面にも対応できるようにするため、生徒との適切なコミュニケーションや指導における安全性を担保できるような研修プログラムを大学等と連携して開発する

✓ 部活動指導連携シートの導入

- 外部指導員と顧問/生徒間において、事前に活動方針や技術レベルを情報共有するためのシートを導入する

✓ 業務効率化・改善に資するシステムの導入

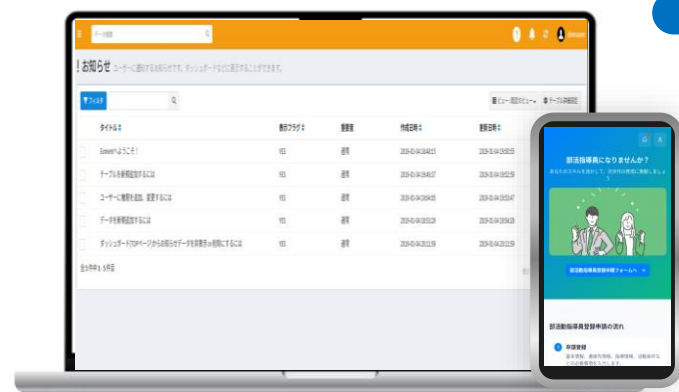
- 外部指導員と教育委員会に関わる登録・報告・連絡などの業務を効率化するため、業務効率化システムを導入し、作業負担の軽減を図る
- 紙による運用や個人LINE・SMSによる連絡に起因する内部統制上および情報管理上の課題についても、当該システムの活用を通じて解消を目指す

実施概要

概要

項目	第一弾	第二弾
期間	令和7年2～3月（休日部活動のみ）	令和7年9月～12月（休日部活動のみ）
対象学校	1中学校（西中学校）	3中学校（西中学校・東中学校・旭中学校）
対象部活動	3部活（ソフトボール・女子バレーボール・剣道部）	3部活以上の種目（尾張旭市と協議のうえ決定）
協力企業・団体	東邦ガスグループ	東邦ガスグループ・地域企業・地域団体
取り組み内容	- 企業人材が外部指導員として活動できるかの確認 - 学校/教育委員会の業務量の把握	- 指導員向け研修プログラムの導入、効果の検証 - 部活動指導連携シートの導入、効果の検証 - 業務効率化・改善に資するシステムの導入
スケジュール	～1月：外部指導員の募集（東邦ガスグループ） 2～3月：第一弾実証実験 4～5月：効果検証、成果報告	5～8月：外部指導員（参画企業）の募集/研修プログラム開発（大学等との連携）/システム開発 9～12月：第二弾実証実験 1～3月：効果検証（アンケートなど）/第二弾実証実験の報告会

システムの機能概要（全体像）



Point 01 マッチング・契約



Point 02 日程調整



Point 03 相互連絡



Point 04 活動報告/支払い



Point 05 月謝徴収



※開発中システムの画面イメージ

第2部

尾張旭市における新たな取り組み



実施概要（案）

既存の枠組みに依存しない**新たな部活動地域移行の可能性**についても試行的に検証します。

新たな部活動運営形態の検証（構想段階）

ケース① （ヨコの連携）

3中学校合同の地域バスケットボールクラブ （Asahi Basketball Club）の実証

- ✓ 学校外の「地域クラブ」による運営上の課題の把握
- ✓ 教職員の兼職兼業による指導モデルの検証



ケース② （集約化）

小学生地域金管クラブの合同実施の実証

- ✓ 指導者の減少により活動危機の地域クラブを集約化することで人手不足解決に貢献できるかの検証



ケース③ （新たな機会創出）

休日限定の新しい種目の実証

- ✓ 現在市内中学校の部活動には存在しない新たな種目について、企業人材の活用や休日限定運営の可能性を検証
- ✓ 受益者負担(参加費徴収等)の運用課題の把握
- ※会費徴収のデジタル化を検証 予定モデルの検証



ご清聴ありがとうございました

質疑応答

(1) 「これまで」について

尾張旭市における取り組みの背景や第一弾実証実験に関する内容

(2) 「これから」について

尾張旭市における新たな取り組みや第二弾実証実験に関する内容

※本質疑応答は自治体の皆さまを対象とさせていただき、メディア関係者やその他の方からのご質問には、報告会終了後に個別で対応させていただきます。